

市町村名		本部町					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	もとぶのマーサムン・ミジラシムンづくり支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成		
事業内容	本部町の特産品を開発するため、本部町内の企業等に開発を委託し、より多くの特産品をつくりあげる。なお、開発した特産品については、その製法・仕様を本部町内の企業等に無償で提供する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a) 当初予算額	19,281	18,624			
	(b) 予算現額	19,290	18,624				
	(c) 増減額 (b-a)	9	0				
	(d) 繰越額	0	0				
	A. 計 (b+d)	19,290	18,624				
	B. 執行済額	15,434	16,172				
	うち交付金充当額	12,347	12,937				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率 (%) (B/A)	80.0%	86.8%				
予算の状況の説明	当初の積算額より低い金額で発注できたため不用額が生じたが、事業は計画通り遂行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	特産品の開発	目標	(5品)	(5品)	()	()	
		実績	9品	13品			
	開発した特産品の広告・宣伝	目標	(パンフレット作成)	(パンフレット作成)	()	()	
実績		パンフレット作成 20,000部	パンフレット作成 15,000部				
達成状況説明	<p>・町内の5事業所へ特産品開発の委託を行い、「フクギ」、「ヤギミルク」、「さくらの葉」、「シークワサー」、「タンカン」、を活用した本町の新たな特産品を13品開発した。</p> <p>・開発した特産品及び本町のPRをすることのできるパンフレットを15,000部作成した。昨年度に比べ部数が減っているが、仕様を大幅に変更し、女性でも手に取りやすい様にした。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(29年度)
	開発した特産品の製法・仕様の公開	目標	()	(5社)	(5社)	(5社)	(5社)
		実績		0社	2社	4社	4社
	【参考指標】 開発した特産品の販売額	目標	()	(0)	(6,723千円)	(8,964千円)	(11,206千円)
		実績		0社	(3,003千円)	(3,659千円)	(6,563千円)
目標	()	()	()	()	()		
実績							
進捗状況説明	<p>・「開発した特産品の製法・仕様の公開」に関して、作成したパンフレットを町内イベント等で配布し周知を行った。町内企業からの公開申請数は目標に届かなかったが、仕様の公開によって町産原料の利用方法についてヒントやアイデアが生まれたという意見があった。</p> <p>・「開発した特産品の販売額」については、原料の調達が不安定となり生産数が落ち込んだ商品や、同価格帯商品との競合によって売り上げが伸び悩んだ商品があり、目標を達成することができなかった。しかし、消費者ニーズに合わせたレシピの改善や、販路の新規開拓により平成29年度については販売額を大きく伸ばすことができた。</p>						

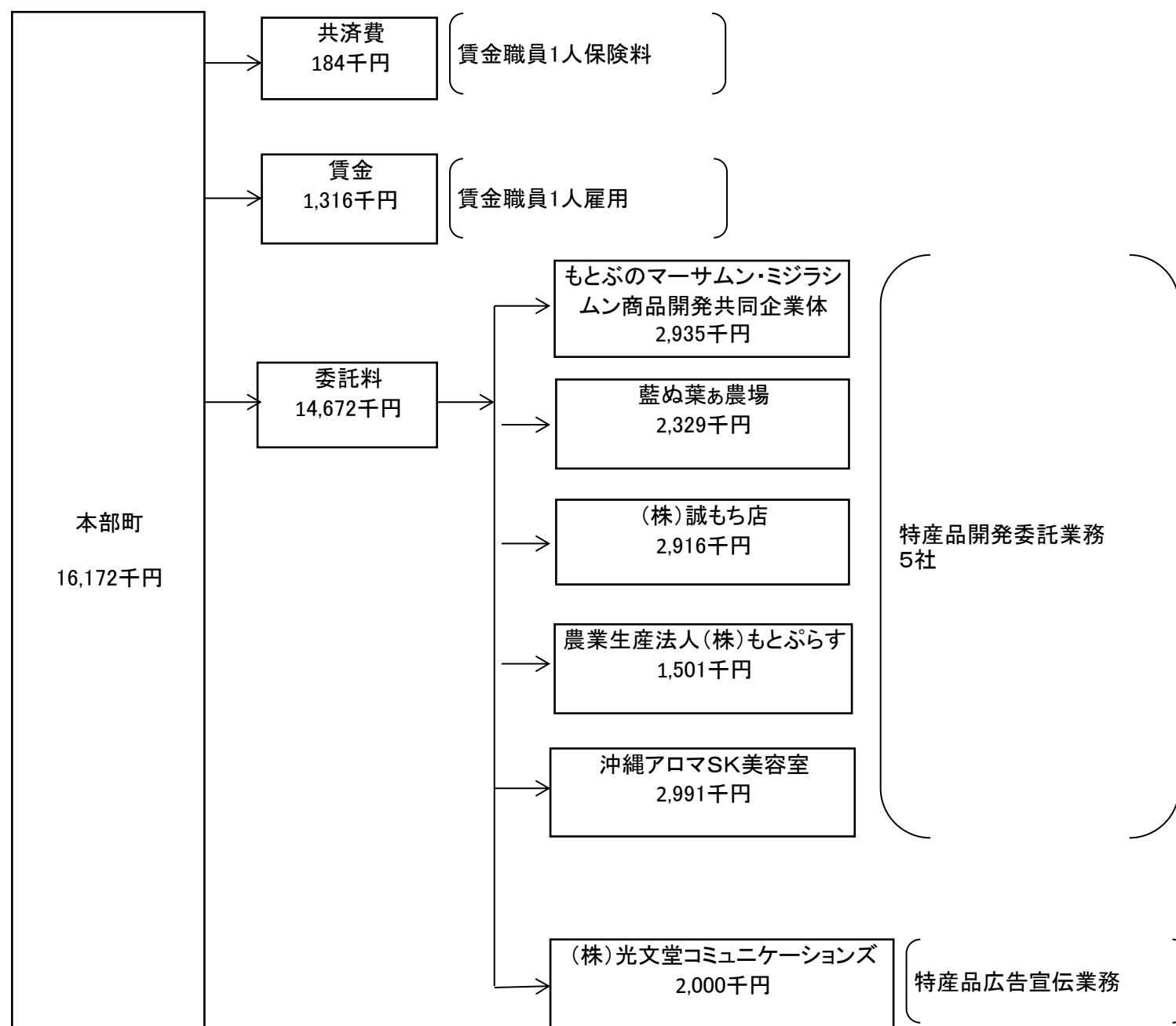
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>【開発した特産品の製法・仕様の公開】 町内企業からの申請が少なかったことについて、情報発信が十分でなかったことがあげられる。また、商品によっては特殊性が高いことから、仕様や製法の公開について需要が少なかったことが考えられる。</p>	<p>【開発した特産品の製法・仕様の公開】 引き続きパンフレットを中心に周知を継続していくが、消費者ニーズに合わせて開発商品もブラッシュアップされていることから、その新たな魅力を広く伝えるため、商品情報を更新するなど、効果的なPR方法を検討する。</p>
	<p>【開発した特産品の販売額】 町産原料の供給不足による商品生産数の減少、小規模事業者であることから販路拡大に苦戦していることが課題となっており、その解決が必要である。</p>	<p>【開発した特産品の販売額】 町産原料の確保が大きな課題となっていることから、第1次産業従事者等との連携の強化が必要である。また、町内外各関係団体への情報提供、各種イベント等でもPRを行うことにより、販路拡大を積極的に支援していく。</p>

今後の取り組み方針

開発商品について、原料供給の不安定さや同価格帯商品との競合等から、今後とも現況に合わせたブラッシュアップが不可欠である。また、販路拡大のためのPRも強化していく必要がある。今後、これらの視点を踏まえ、開発事業者と第1次産業従事者及び各種団体との連携の支援、町内施設を活用した販売戦略の確立等、フォローアップ体制を強化していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
16,172	16,172	12,937	3,235	0



資金の用途の流れ、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は公募型プロポーザル方式により事業内容、地域への貢献度等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>・当初の積算よりも安い金額で発注が出来たため残額が発生しているが、予算規模は妥当であった。</p> <p>・費目、用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	